

令和6年度第2回白河市行政改革推進委員会（要旨）

日時	令和6年10月16日（水）13時30分～15時00分
場所	201会議室
出席者	委員7名 小林 知二委員長、徳田 芳江委員、十文字 由紀子委員 鈴木 富幸委員、井上 竜一委員、和知 玲子委員、 金内 貴弘委員
事務局	2名 田崎課長、大森副主査
内容	<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>（1）令和6年度第1回行政改革推進委員会での後日回答分について</p> <p>【事務局より説明】</p> <p>○委員 環境改善事業の補助金について、使用済み紙おむつを処分するために必要な物品とは具体的にどのようなものか。</p> <p>○事務局 例えば、匂いが出ないようにするゴミ袋などの物品がそれに当たる。</p> <p>○委員 事業継承支援事業補助金は農業限定か。</p> <p>○事務局 農業のみになる。</p> <p>○委員 市役所に行くと、限定で段ボールのコンポストがもらえるというような話を聞いたことがあるが、それも農業関係の補助金を利用したものなのか。</p>

○事務局

白河市はごみの量が多いということで、環境保全課でごみを減らす取組をしており、その一環で行っているものかと思われる。コンポストの他にごみの水切り用の袋も提供していたが、それらについては県から提供を受けているかもしれないので、詳しくは担当課に確認する。

○委員

農家や家庭菜園などで生ゴミを肥料として使用している方々がいるにもかかわらず、もともとゴミの量は多かったのか。

○事務局

県外からもクリーンセンターに持ち込まれている可能性もあり、なぜ白河市がこんなに多いのか分析がまだできていない。ごみが減ってきている郡山市などの分析は始めている。

○委員

白河市で販売しているゴミ袋は質はよいが高い気がする。ごみが多いからゴミ袋も高いのではないか思う。

○事務局

議会でもゴミ袋と給食の無料化の話はよく出てくるが、無料化したときに、いつでも出せるのがよいのかというところには疑問がある。お金がかかることによって多少はごみを減らしていこうという考え方も出るので難しいところ。

○委員

クリーンセンターに話を聞くと、重油を少しでも減らすために、プラスチックごみを可燃ごみに入れるという取り組みをしているということだった。わざわざ洗って、ゴミを分別しても無駄になってしまうのではないかと思っている。

○事務局

全国的にはあるが、プラスチックごみは燃やしている場合が多い。綺麗に洗っていない場合もあるため、そうせざるを得ないところもあるとは聞いている。ただ、少なくとも分けていかないと、リサイクルできるものもできなくなってしまうので、引き続きお願いしたい。

○委員

民間保育の保育支援金の祝い金に関連して、現況、保育士は充足しているのか。

○事務局

正職員と会計年度任用職員で半々くらいの数がある。会計年度任用職員

はある程度希望に応じて、半日であったり、一時預かり保育等で雇用している。国の方の制度が変わり、会計年度任用職員の給与を上げたときもあり、それもあって人数は足りていないわけではない。

○委員

会計年度任用職員も補助対象になっているのか。

○事務局

今ほど話したのは白河市の職員の状況だったが、この補助金の対象は民間で、そちらの方で足りてない状況。民間では金銭的な部分や子どもに対する保育士の数が少なくなったりするところがあるため、できるだけ手厚く補助することを目的としている。

(2) 第2次行政経営改革プラン重点戦略進行管理シートの最終報告  
(令和5年度分)

【事務局より説明】

○委員

私も市役所の組織がいまいち理解できてない部分もあるが、担当部署は「課」になるのか。

○事務局

「部署」とはあるが「課」名で記載している。

○委員

改革とか人材育成とかについてはやりやすい部署でやっているのか。他に多くの部署があるかと思うが、そちらにも人材育成やDXなどを展開できているのか。

○事務局

例えば情報政策課ではDXについて各部署に展開しているなど取組を行っている。現在、行政改革自体は総務課の行政管理係で行っているが、以前は使用料の改定といった大きな課題ができたときは専門部署を置いて取り組んでいたため、今後もそういった課題が出た場合は同じように専門部署を立ち上げることも考えられる。

○委員

以前は独立した部署があったが、現在は係の中の1つの業務としてやっている。会議で話し合った中で課題が出て、解決していくとこまで持てかないと、行革にならないと思うが、今のマンパワーでは難しいところもあるので、独立した部署を持つべきじゃないかと思う。

○委員

複合施設は最終的にはいつぐらいに完成予定か。

○事務局

令和9年の4月を目標にしている。今月の臨時議会に立体駐車場の契約についてあげるので、立体駐車場は年度内に工事に入る。

○委員

評価の方法について指標と計画値と実績値とあるが、わざわざ指標化、指数化しなくてもいいところはあるのではないかと思う。例えば研修の受講率はパーセンテージより対象となる職員が何人でそのうち何人受けましたという実数の方がわかりやすい。次回以降、指数は指数として残して、具体的な数もわかればありがたい。

また、育休の実績に関して、男性も女性も、特に男性について具体的に何日取ったのかが気になる。希望職員は100%取れたという説明だったが、抱えている仕事の関係で、本当は希望したいが断念した人はいないのか心配がある。評価は難しいと思うが、誰でもとれる環境を整備したと伝わってくるような評価の方法を検討いただけるとありがたい。

○事務局

実例を言うと、近くに頼れるお父さんお母さんがいなくて、2人目のお子さんだったので取らざるをえないという職員がいた。そういう場合ではなく、お父さんお母さんが見てくれる場合でも、自分で取りたいければ取れるっていう環境になっているかという、まだ白河市もそこまでいっていない。ただ、そういったときに、その人の分まで考えて余計に職員をどこかに配置しておいて、休んだときにはすぐ配置転換できるから休んでも大丈夫という環境にしてあげられるかどうかは、これから検討していかなければならない。

○委員

誰でも育休をとれるようにある程度人数を見越して、余裕のある人数配置をできるようになるのが一番理想的だと思うが、かなり難しい。なので、そこに向かって進めるような施策とか、そういう文言も入れてもらえるとうありがたい。

○事務局

難しいところではあるが、子どもが生まれたら休むという感覚が当たり前というところが目指すところではないかと思う。

○委員

100の仕事に対して、100%の状況で仕事をしている状況だと、災害とか何か起こったときに対応できないので、それを見越した枠を作りながらの働く環境づくりが役場と民間企業に共通したテーマになっていくと思う。

○事務局

そういうことができないところには人が集まってこないって言われているので、育休を取った男性職員のコメントをホームページに載せたりしてPRもしている。

○委員

データ放送の開始という目標を令和5年度に掲げていたが、その報告が抜けてしまっている。これは達成されたのか。

○事務局

担当は秘書広報課になるが、この部分については報告がなかったので、改めて確認する。

○委員

白河市で公開しているオープンデータが白河の人口くらいしかない。

○事務局

オープンデータについてはあまり進んでいないところがある。情報公開で税務課の持つ地図情報の公開請求があり、他の自治体では公開しているところもあるので、公開することにより請求者だけでなく職員の手間も減らせるため、そういったところも考えると公開できるものは公開していくべきと考えている。

○委員

AIも発達しているので、例えば「白河の企業数は？」という質問をしたら返答してくれるようなチャットボットみたいなものを使うのもよいと思う。

○委員

市の教育事務の評価委員会があったときに、市の歴史に関する資料を図書館と連携してデータ化は進めているという話があったので、いずれそういうものもオープンデータとして公開されるのか。

○事務局

保存という意味合いが強いと思うので、オープンデータ化するかは不明。

○委員

例えば夏に朝早く来て夕方早く帰るとか、職場で臨機応変にやっているところもあるのか。

○事務局

本人申請で年間を通して早出や遅出の勤務を行っている。ただ、業務が成り立たなくなっはいけないので、人数が少ないところだとできないこともある。

○委員

広報広聴手段の充実としては、具体的にどんなことやっているのか。移住という形で、人口減少の対策をするのもあるが、もともと白河に住んでいる人の満足度が高くないといけないと思う。そのためには、ニーズの把握も当然必要になる。ワークショップやパブリックコメントがそのための手段として考えられるが、意見を言う機会がない人たちが、今の白河市に対してどう思っているのかを把握して解決していくことも必要かと思う。

○事務局

市民に対して広くニーズを把握するという形ではないが、今やっているものとしては、LINE やホームページのアクセスの分析を行っている。

○委員

昨日、商工会議所の委員会に出席し、若者の移住定住促進がテーマとして上がった。白河市で行っている新幹線通勤に関するものも含めた補助金は数多くあるが、知らないということが多いので、いかに周知徹底していくかが課題だという話が出た。また、住みよさランキングでは、白河市は結構上位にも関わらず、出ていってしまう人の方がどうしても多い。こういうところに出てくる結果と、実際に住んでいる人たちが思い描いている住みよさといったところに少しずれがある可能性もあると考えられるので、様々な方法でニーズを把握するという努力は必要だと思う。5歳から25歳の転出が進学も含めて圧倒的に多くて、25歳から35歳になるとある程度帰ってくる人が多くて、差し引くとやっぱり出てった人の方が多く、特に女性の方の転出率が高いようである。

○事務局

勤め口というところが一番大きなところだとは思う。石破総理も同じようなことを言っていて、やはり地方を活性化するには、若い人と女性が地方に戻ってくるような政策が必要かと思う。

○委員

お年寄り向けのバスの運行本数やタクシーのチケットの量は、年々増やしていたりしているのか。

○事務局

バスに関しては人口が減少してくると、利用者数が減ってくるので、それに対応した運行本数となると思われる。タクシー券は一定以上の年齢の人たちに対して無料で配っており、申請すればもらえるものなので、増えていっていると思われる。また、大信と白坂で定額の乗り合いタクシーの実証実験も行っている。

○委員

高齢になると事故のリスクもあるため、免許を返納した方が良いこともあるが、生活スタイルによっては返納が難しいので、それに変わる公共交通が必要となる。また、さきほど民間の保育士には補助金が出るとあったが、介護士は減っているのに、補助金が出ない。将来ある子どもたちに向けて支出するのはいいと思うが、そういったところの対策も必要だと思う。

○事務局

少子化がクローズアップされがちだが、高齢福祉や障害の方の窓口に来る人が多くて、職員も日中の窓口対応とそのあとの仕事で疲弊しており、高齢者の方にも力を入れていかねばならないと感じているが、少子化対策もしなければならないという現状。

○委員

育休だけでなく介護休みたいなものも必要ではないかと思う。一番忙しい定年間際とかに親の介護で休まなきゃいけないとか、そういったことも考えられる。

○委員

話が戻ってしまうが、私たちは行政改革委員という立場にあるから意見を出しているが、一般の方で要望をいうことはできないって人は多いと思う。白河市に住んでよかったと思えるように、そういった方の要望を吸い上げて実現化していくのが必要だし、移住者も増える要因になる。

○委員

老後に移住しやすいと思える公共交通機関の整備が必要。

○委員

タクシーチケットを1万円分もらっても、場所によってはあつという間になくなってしまう。

○委員

都会から移住してもらおうと思ったら、免許がない人もいると思うので、そういった人が困らないようにする必要がある。

○委員

そうすると、市内循環バスが回っているところがいいということになるし、そこから外れた人たちはどうするのかとってしまう。お金の問題もあり、路線を増やすのも難しいともなると、いろんな問題が重なって堂々めぐりになってしまう。

○委員

バスじゃなくてハイエースやアルファードくらいの車で、近所の人で申し出れば病院や買い物に行けるようなものがあればいいのかなと思う。

(3) その他

**【次回のスケジュール及び議題について事務局より説明】**

4 閉 会